

平成18年度

福岡アジア美術館年報

Fukuoka Asian Art Museum Annual Report 2006

平成18年度

福岡アジア美術館年報

Fukuoka Asian Art Museum Annual Report 2006

目次

■ 展示事業	
1 特別企画展	04
2 小企画展	12
3 コレクション展	13
■ 交流事業	
1 美術交流事業	16
2 美術教育交流事業	19
■ 教育普及事業	20
■ ボランティア活動	21
■ 広報活動	24
■ 新所蔵作品	26
■ 入館者数	32
■ 活動記録	34
■ 概要	
1 基本理念	36
2 活動内容	37
3 施設概要	38
4 沿革	42
■ 名簿	44

展示事業

ドイツ・ヒルデスハイム博物館所蔵 古代エジプト展～甦る五千年の神秘～



会 期 2006年3月16日(木)～5月7日(日)
 会 場 企画ギャラリー
 主 催 福岡アジア美術館 読売新聞西部本社 FBS福岡放送 東映株式会社
 後 援 外務省 文化庁 ドイツ連邦共和国大使館 福岡県
 福岡県教育委員会 (財)福岡市文化芸術振興財団
 福岡商工会議所 九州旅客鉄道 西日本鉄道 福岡市交通局
 NIB長崎国際テレビ KKTくまもと県民テレビ KRY山口放送
 FM福岡 CROSS FM 博多リパレインイニミニマニモ
 協 力 ドイツ・ヒルデスハイム博物館 早稲田大学エジプト学研究所
 ルフトハンザ ドイツ航空 ルフトハンザ カーゴ
 監 修 吉村作治(早稲田大学教授)
 協 賛 味の明太子ふくや 九州電力 積水ハウス
 開 催 日 数 33日(4月1日から) 参考: 47日(全会期)
 観 覧 者 数 47,713人(4月1日から) 参考: 59,126人(全会期)
 出 品 点 数 114点

歴史家ヘロドトスにより「ナイルの賜物」と称賛された古代エジプト文明では、河川沿岸の緑地と広大な砂漠の対比から人間の生と死が連想されるため「再生復活」の信仰が生まれた。太陽の沈む西側を「来世＝死者の町」として墓地が、東側を「現世＝生者の町」として神殿・王宮が造られた。西側に今も残るギザの三大ピラミッドや、王家の谷で発見されたツタンカーメン王墓などの遺跡群は、こうした死生観の証とも言える。

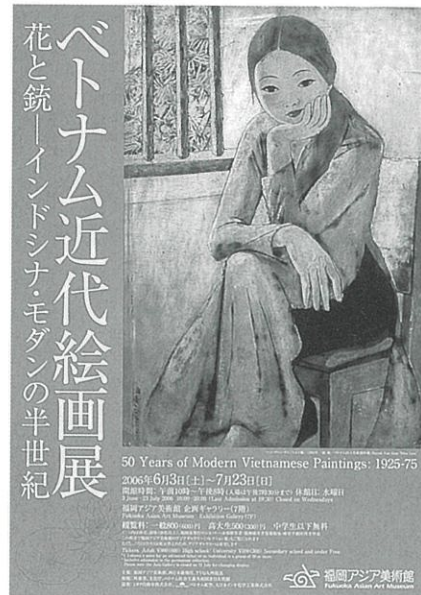
本展では、古代エジプト人の思いを追い求めて、黄金に輝くミイラマスクや彩色木棺などを通じ、偉大なる文明の遺物が語る現世から来世への道のりをたどった。日本初公開となるミイラ等貴重な資料は、エジプトコレクションで名高いドイツのヒルデスハイム博物館から特別出品された。

ポ ス タ ー B2 制作: 東映株式会社
 チ ラ シ A4 制作: 東映株式会社
 図 録 A4変形 発行: 東映株式会社

関連記事

- 2006. 2.27 読売新聞(朝)「国内初公開ミイラ 古代エジプト展」
- 2006. 3.13 読売新聞(朝)「悠久の時を越えて 古代エジプト展」
- 2006. 3.16 読売新聞(朝)「古代エジプト展きょう開幕 会場で安全祈願祭」
- 2006. 3.17 読売新聞(朝)「文明の神秘に酔う アジア美術館・古代エジプト展」
- 2006. 3.17 読売新聞(朝)「子どもミイラ 古代エジプト展開幕」
- 2006. 3.18 読売新聞(朝)「永遠の命を求めて① 黄金を施したミイラマスク」
- 2006. 3.19 読売新聞(朝)「永遠の命を求めて② イシス女神のレリーフ」
- 2006. 3.23 読売新聞(朝)「永遠の命を求めて③ ウジャトのアミュレット」
- 2006. 3.26 読売新聞(朝)「永遠の命を求めて④ トト神像」
- 2006. 3.28 読売新聞(朝)「古代エジプト展 入場1万人突破」
- 2006. 3.29 読売新聞(朝)「永遠の命を求めて⑤ ジャッカルの頭のマスク」
- 2006. 3.30 読売新聞(朝)「輝き放つ永遠の象徴 古代エジプト展」
- 2006. 4.22 読売新聞(朝)「古代エジプト展 3万人突破」

ベトナム近代絵画展 花と銃—インドシナ・モダンの半世紀



会 期 2006年6月3日(土)～7月23日(日)
 会 場 企画ギャラリー
 主 催 福岡アジア美術館 西日本新聞社 TVQ九州放送
 後 援 外務省 文化庁 ベトナム社会主義共和国在日大使館
 協 賛 トヨタ自動車株式会社 ベトナム航空
 大日本インキ化学工業株式会社

開 催 日 数 44日
 観 覧 者 数 6,502人
 出 品 点 数 98点

近年日本からも多くの観光客が訪れ、食やファッション、雑貨などの分野で人気を集めているベトナムだが、美術に関してはあまり知られていないのが現状である。本展は、ベトナム近代美術史における激動の半世紀を、98点の出品作品によって体系的に紹介する日本で初めての展覧会となった。

18世紀以前のベトナムは中国およびインドの影響を大きく受けながら歴史を刻んできたが、19世紀にフランスの植民地となり、その後、抗仏戦争やベトナム戦争を経験するなど激動の時代をたどってきた。こうした中、1925年に東南アジア最初の美術学校であるインドシナ美術学校が設立され、それ以降、ベトナム人画家たちは、フランス美術を学ぶ一方で、漆や絹など伝統的な素材を用いた革新的な表現世界を築き上げてきた。そこには、東洋のフチバリらしいモダンで洗練された優美さと、強大な外敵に立ち向かう勇ましが併存し、高い芸術性と大衆的な魅力をあわせもった、独特の絵画世界が展開されている。

出品作品は、ベトナムの代表的な美術館であるベトナム国立美術館、ホーチミン市美術館に加え、ベトナム文化情報省美術写真局、福岡アジア美術館の所蔵品を中心に、油絵、絹絵、漆絵、木版画など代表的な作品の数々を一堂に集めた。

ポ ス タ ー B2 制作：北里俊明 [design POOL] (デザイン) / 久野印刷株式会社 (印刷)
 チ ラ シ A4 制作：北里俊明 [design POOL] (デザイン) / 久野印刷株式会社 (印刷)
 図 録 B5変形 発行：日動出版

- 関 連 事 業
- 講演会「インドシナ美術学校の誕生—フランスの植民地政策とのかわりから」
 講師：松沼美穂(福岡女子大学講師、フランス史)
 場所：あじびホール(8F)
 日時：7月1日(土)午後2時～3時30分
 - 講演会「ベトナム近代絵画の半世紀」
 講師：後小路 雅弘(九州大学教授、本展監修者)
 場所：あじびホール(8F)
 日時：7月8日(土)午後2時～3時30分
 - 「ベトナム茶会」
 講師：グエン・ミハン
 場所：アジカフェ(7F)
 日時：1回目 6月30日(金)午後2時～
 2回目 7月9日(日)午後2時～

関連記事

- 2006. 3 アジアを知りたい 九州大学アジアへのアプローチ 後小路雅弘「花と銃 ベトナム近代絵画の半世紀をたどる」 p.42-43
- 2006. 6. 1 西日本新聞(朝) 「激動の時代を表現 絹絵や漆絵など88点」
- 2006. 6. 3 西日本新聞(夕) 「ベトナムの半世紀写す 近代絵画展が開幕」
- 2006. 6. 9 長崎新聞 「はなまるふくおか 激動の半世紀を紹介」
- 2006. 6.12 西日本新聞(朝) 井口幸久「脈々と描き続けられた絵 ベトナム近代絵画展」
- 2006. 6.24 西日本新聞(朝) 山木裕子「インドシナ美術の歩みたどる」
- 2006. 6.27 西日本新聞(朝) 「30日と来月9日 ベトナムの茶会」
- 2006. 6.29 西日本新聞(朝) 「ベトナム絵画展記念 来月、2講演会」
- 2006. 7. 4 西日本新聞(朝) 「ベトナム近代絵画展を見て④ ミュージシャン ドルチェ 果てなき美への旅路」
- 2006. 7. 5 西日本新聞(朝) 「ベトナム近代絵画展を見て⑤ ミュージシャン ケイタク 夕刻に素朴な感情喚起」
- 2006. 7. 6 西日本新聞(朝) 「ベトナム近代絵画展を見て⑥ 大塚ムネト 思わず作品に「参加」」
- 2006. 7.14 朝日新聞(夕) 池田美奈子「美術：批評！ ベトナム近代絵画展 激動期にも静かな美意識」

台湾の女性日本画家・生誕100年記念—陳進



会 期 2006年7月30日(日)～2006年9月10日(日)
 会 場 企画ギャラリー
 主 催 福岡アジア美術館 読売新聞西部本社 FBS福岡放送
 美術館連絡協議会
 特別協力 財団法人陳進記念文化藝術基金會 臺北市立美術館
 後 援 台北駐日経済文化代表處 台北駐福岡経済文化辦事處
 財団法人交流協会 学校法人女子美術大学
 協 賛 花王株式会社
 協 力 日本アジア航空
 開催日数 37日
 観 覧 者 数 6,133人
 出 品 点 数 129点

1895年、日本の殖民地支配下に置かれて以後、今日まで、台湾は、政治的に中国大陸と異なった道を歩んだばかりでなく、文化・芸術の面でも独自の展開を遂げてきた。民主化・自由化が進む現在の台湾において、台湾人としての共通認識を持つ傾向が強まる中、美術の分野においても、「中国美術」ではなく「台湾美術」という考えが形成され、日本統治時代の美術に対する研究が進んでいる。陳進もまた、日本統治時代に活躍をはじめた画家の一人であり、二十世紀の台湾美術の発展に大きな足跡を残した。

1907年、台湾の裕福な家庭に生まれた陳進は、台北第三高等学校で日本画家・郷原古統の教えを受けた後、女子美術学校(現・女子美術大学)に留学、卒業後は、鏡木清方の門に入り、清方、伊東深水などに学んでいる。在学中に第一回台湾美術展覧会に入選したのをはじめとし、1934年の第15回帝展に台湾女性として初入選、その後も帝展、文展での入選を重ねるなどして活躍。戦後の台湾では、中国の伝統的絵画である国画と東洋画(=日本画=膠彩画)との対立の中で制作に悩むことになるが、結婚、母親となって以後は、家庭生活を主題に制作をつづけ、1998年に台北に歿するまで台湾女性画家の頂点として活躍した。

本展では生誕百年を記念し、陳進の代表作を含む絵画77点と素描等26点、及び同時代の日本人画家の作品26点を展示し、その優れた画業を回顧するとともに、二十世紀において独自の道を切り開いた台湾絵画についても考察した。

ポ ス タ ー B2 制作：アート印刷株式会社
 チ ラ シ A4 制作：アート印刷株式会社
 図 録 A4変形 発行：渋谷区松涛美術館、兵庫県立美術館、
 福岡アジア美術館、読売新聞社、美術館連絡協議会

関 連 事 業 □「台湾映画の上映会」
 講師：間ふさ子氏(福岡大学人文学部講師)
 場所：あじびホール(8F)
 日時：9月2日(土)
 午後1時～ 「悲情城市」(トーク15分、本編159分)
 午後5時～ 「バナナ・パラダイス」
 9月3日(日)
 午後1時～ 「バナナ・パラダイス」
 午後5時～ 「悲情城市」(トーク15分、本編159分)

関連記事

- 2006. 1. 1 読売新聞(朝) 「台湾の女性画家、生誕100年記念」
- 2006. 2 美連協ニュース(No.89) 味岡義人「日本画で家庭生活描き 台湾女性画家の頂点に」 p.5
- 2006. 4.13 朝日新聞(夕) 山盛英司「陳進展 東洋画 日本と郷土と」
- 2006. 7.24 読売新聞(朝) ラワンチャイクン寿子「台湾の女性日本画家 日台のはざま 波乱の画業」
- 2006. 7.31 読売新聞(朝) 「陳進展 日台での画業をたどる」
- 2006. 8.10 読売新聞(朝) 岩永芳人「変化の中 貫く志 台湾画家 時代とも苦闘」
- 2006. 8.17 読売新聞(朝) ラワンチャイクン寿子「陳進展から① 《合奏》1934年」
- 2006. 8.18 読売新聞(朝) ラワンチャイクン寿子「陳進展から② 《サンティモン社の女》1936年」
- 2006. 8.19 読売新聞(朝) ラワンチャイクン寿子「陳進展から③ 《眺望》1945年」
- 2006. 8.20 読売新聞(朝) ラワンチャイクン寿子「陳進展から④ 《みどりこ》1950年」
- 2006. 8.25 読売新聞(朝) ラワンチャイクン寿子「陳進展から⑤ 《シアトル》1969年」
- 2006. 8.25 長崎新聞 「はなまるふくおか 台湾の日本画家作品展」
- 2006. 9. 1 朝日新聞(夕) 山口洋三「二つの台湾絵画展 統治時代 忘れさせる危険」
- 2007. 3.19 イメージ&ジェンダー(vol.7) 池田忍「展覧会評：台湾の女性日本画家 生誕100年記念 陳進展」 p.123-126

現代中国の美術展



会 期 2006年9月16日(土)~2006年10月29日(日)
 会 場 企画ギャラリー
 主 催 福岡アジア美術館 西日本新聞社 TVQ九州放送
 財団法人日中友好会館 中国美術家協会
 後 援 外務省 文化庁 中華人民共和国駐日本国大使館
 開催日数 38日
 観覧者数 8,659人
 出品点数 95点

近年、政治や経済、文化の各方面で飛躍的な発展をみせている中国では、各地で展覧会の開催が増え、新しい美術館なども開かれ、美術界は活況を呈している。こうした中、中国最大規模の公募美術展である「全国美術展」が2004年に北京で開かれた。「全国美術展」は、中華人民共和国が建国された1949年に創設、ほぼ5年に1回、全国的規模で開催されている。第10回目を迎えた今回は、全土から数万点にもおよぶ応募があり、幾度もの選考を経て、受賞作品597点が選ばれた。本展では、その受賞作品の中からさらに厳選した中国画、油彩画、水彩画、版画、漆絵、年画、連環画、漫画の作品95点を展観した。作品のテーマは、のどかな農村風景や少数民族の暮らし、過去の歴史の描出、都市での新しい生活ぶりや風俗、新世代の若者の姿、現在の社会問題など多岐にわたり、転換期を迎えた中国社会の多面性を伝えた。また、国際社会のもとで、中国独自の創造性や個性に着目し始めた画家たちによる新たな取り組みも紹介した。

「全国美術展」からの選抜展は、福岡市美術館において2度(1991年および1996年度)開催され、幅広い年齢層の市民から支持を得てきた。今回は通算で4回目、福岡アジア美術館においては2000年について2回目の展覧会となった。

ポスター B2 制作：株式会社スリーライト(デザイン)／
 中央印刷紙工株式会社(印刷)
 チラシ A4 制作：株式会社スリーライト(デザイン)／
 中央印刷紙工株式会社(印刷)
 図 録 A4変形 発行：財団法人日中友好会館

関連事業 □「ギャラリートーク」
 講師：安永幸一(福岡アジア美術館顧問)
 場所：福岡アジア美術館 企画ギャラリー
 日時：9月16日(土)、9月30日(土)午前10時~11時
 10月14日(土)午後2時~3時

関連記事

- 2005.12.22 週刊新潮 「ヌードも携帯も登場する中国「現代美術」」
- 2006. 8 聴く中国語 「今、世界が注目する中国現代アートが面白い」
- 2006. 9. 9 西日本新聞(夕) 「中国 5年に一度の全国展 力作」
- 2006. 9. 9 西日本新聞(朝) 堀川理沙「等身大の視線で中国社会を描く」
- 2006. 9.12 日本経済新聞(夕) 「『中国版モナリザ』写真のような油絵 福岡の美術館展示」
- 2006. 9.14 西日本新聞(朝) 塩津健司「隣国の素顔 美で俯瞰 広がる表現の幅 陰の部分も」
- 2006. 9.17 西日本新聞(朝) 「現代中国の美術展 開幕」
- 2006. 9.27 西日本新聞(朝) 「現代中国の美術展を見て① 王泰平さん 農村の『いま』を描く」
- 2006. 9.28 西日本新聞(朝) 「現代中国の美術展を見て② 莫言さん 紅でめでたさ表現」
- 2006. 9.29 西日本新聞(朝) 「現代中国の美術展を見て③ 路々さん 主題を真正面から」
- 2006.10 美術手帖 堀川理沙「見よ!! 中国絵画の底チカラ」 p.56-63
- 2006.10. 3 毎日新聞(夕) 渡辺亮一「究極のリアリズム」
- 2006.10.14 西日本新聞(朝) 安永幸一「現代中国の美術展によせて 顕著になったリアリズム表現」

近代美術Ⅳ 日本時代の台湾絵画—見いだされた郷土—



会 期 2006年7月13日(木)～2006年10月3日(火)
 会 場 アジアギャラリー A
 主 催 福岡アジア美術館
 特別協力 行政院文化建設委員会 国立台湾美術館
 協 力 チャイナ エアライン社
 開催日数 72日
 観覧者数 11,319人
 出品点数 25点

アジアの近代美術における重要な作家たちや美術運動などをとりあげる「近代美術」シリーズの第4回展。今回は、日本が統治した時代(1895～1945年)の台湾の近代美術を紹介した。この展覧会は、台中の国立台湾美術館で開催された「日治時期台湾美術的(地域色彩)展(2004年7月31日～2005年3月13日)の福岡巡回で、福岡では規模を縮小し、新たな作品を加えて展示した。

当時、台湾の画家たちが活躍の場とした「台展(台湾美術展覧会)」や、東京で開催された帝展、新文展などの官展では、日本人審査員や美術評論家により、「台湾らしい」作品の創出が求められた。台湾人画家たちは、こうした助言を自己の課題にかえて、自らの「郷土」へ目をむけ、油彩画や水彩画、膠彩画を制作した。本展は、画家たちが、自己の表現を模索していく中で見だし再認識していった「郷土」をテーマに、台湾で美術家の育成に情熱をかたむけた日本人画家たちと、その教えを受けて独自の作風を獲得していった台湾人画家たちの絵画25点で構成した。

ポスター B2 制作：栗田卓哉[ビジュアルイメージワーカーロック] (デザイン) / 久野印刷株式会社 (印刷)
 チラシ A4 制作：栗田卓哉[ビジュアルイメージワーカーロック] (デザイン) / 久野印刷株式会社 (印刷)
 図録 A4 制作：栗田卓哉[ビジュアルイメージワーカーロック] (デザイン) / 久野印刷株式会社 (印刷)
 発行：福岡アジア美術館

関連事業 □「ギャラリー・トーク」
 講師：ホワン・ツァイラン(黄才郎) (臺北市立美術館館長)
 シュエ・イェンリン(薛燕玲) (国立台湾美術館学芸員)
 場所：アジアギャラリー A
 日時：7月13日(木)午前10時～11時

関連記事
 2006. 7.12 西日本新聞(朝) 「統治下の作品に絞り、魅力を紹介 あすから福岡アジア美術館」
 2006. 7.14 読売新聞(朝) 「日本時代の台湾絵画並ぶ 福岡アジア美術館で開幕」
 2006. 7.14 毎日新聞(朝) 「日本時代の台湾絵画」
 2006. 7.24 西日本新聞(朝) 「Asiaトゥデー 行政院文化建設委主任委員 邱坤良氏に聞く 台湾の「多元性伝えたい」」
 2006. 7.29 毎日新聞(朝) 渡辺亮一「戦時記録画に見る描き手の屈折」
 2006. 9. 1 朝日新聞(夕) 山口洋三「二つの台湾絵画展 統治時代忘れさせる危険」

アジア・ギャラリーでは、当館の所蔵品により、アジア美術の近代から現代への流れがわかるように展示をおこなった。その中で、2本の特設コーナーを設置し、2～3ヶ月ごとにテーマ展示を行った。平成18年度の特設コーナーで開催した展覧会は下記のとおりである。

■アジアギャラリー A

光を求めて—ミャンマーの近現代美術

2006年3月30日(木)～7月10日(月)

パゴダ(仏塔)の光のもと暮らす人々を描いた絵画や閉塞的な社会と対峙する現代アーティストの作品など、20世紀初頭から現代までのミャンマー(ビルマ)美術を紹介した。

関連記事

2006. 4.17 asian beat 「ミャンマー～激動の時代を映しとってきたアート」
 (http://asianbeat.jp/xoops/modules/xf0section/article.php?articleid=366&category=31)

マドンナたちのフィリピン—女性・キリスト教・多層文化—

2006年10月5日(木)～12月25日(月)

九州大学文学部社会連携事業。当館が所蔵するフィリピン作家の作品を、九州大学(文学部美学美術史研究室、AQA Project)の学生たちの新鮮な切り口で紹介することにより、美術館活動の新たな可能性を探るとともに、大学の社会貢献のあり方を模索するものとして企画された。学生たちは、展示計画を立てることにとどまらず、研究活動、広報普及活動、鑑賞教育活動に関わることで、展覧会実施のプロセスを通して、美術館活動の様々な側面を実践的に学んでいった。展覧会は、〈キリスト教〉と〈女性〉をキーワードに、フィリピンの歴史や多様な文化を示す作品など17点で構成され、作品にちなんだゲームを観客が遊びながら会場を回る鑑賞ツール、大学生連によるギャラリー・トークなどのほかに、観客を対象としたアンケートも実施された。

ポスター B2 制作：マツダヒロチカデザイン事務所 (デザイン) / 久野印刷株式会社 (印刷)
 リーフレット A5 制作：福博総合印刷株式会社
 チラシ A4 制作：マツダヒロチカデザイン事務所 (デザイン) / 久野印刷株式会社 (印刷)

関連事業 □「ギャラリー・トーク」
 講師：九州大学学生(AQA Projectメンバー)
 場所：アジアギャラリー A
 日時：10月29日(日)、11月26日(日)、
 12月24日(日)午後2時～3時

関連記事

2006.10.15 九大学生新聞(第254号)「AQAプロジェクト 九大生と美術館が共催」
 2006.11.10 読売新聞 「九大生が企画 多様な文化と歴史」
 2006.11.20 西日本新聞(朝) 後小路雅弘「大学と美術館の未来に向けて」
 2006.11.24 長崎新聞 「九大生が企画の展覧会」
 Nov/Dec 2006 "Filipina Madonnas" Asian Art News (vol.16, no.6), p.34
 2007. 5.25 LR Returns 11 矢追亜弓「マドンナたちのフィリピン—女性・キリスト教・多層文化—展～AQAプロジェクトの挑戦～」p.48-59

あじび de 初詣～アジアの神さま大集合

2007年1月2日(火)～3月27日(火)

新年初のコレクション展として、所蔵品の中からアジアの様々な宗教の神さまや仏さまを描いた作品を紹介した。また、観客がおみくじを引いて持ち帰ることができるカード型のカレンダーや、展示室の中で遊ぶことの出来る所蔵品を使ったカルタなど、工夫を凝らした展示を行った。

チラシ A4 制作：久野印刷株式会社

関連記事

2007. 1. 3 読売新聞(朝) 「アジアの神さま カルタで大集合」
 2007. 1. 6 西日本新聞(朝) 山本裕子「アジアの神様に会いに来て」
 2007. 1. 7 西日本新聞(朝) 「アジアの神様大集合! 描いた作品50点展示」
 2007. 3. 2 読売新聞(朝) 岩永芳人「地域や時代で異なる姿 アジアの神さま大集合」

■アジアギャラリー B

新所蔵品展

2006年3月30日(木)～6月13日(火)

当館のニューフェイス(新収蔵品)を定期的に紹介する展覧会。今回は、2004年以降に収蔵した作品を中心に、所蔵品に関するデータやアジア美術館の収集活動についての解説パネルを展示した。

身体の風景

2006年6月15日(木)～8月29日(火)

アジアでは、主に1980年代後半からパフォーマンスが盛んになった。自らを取り巻く社会的な問題に一石を投じたパフォーマンス作品を、記録写真と映像によって詳細に紹介した。

関連記事

2006. 7. 2 読売新聞(朝) 黒田雷児/白石知子「見に来て! 身体が発するメッセージ」

アジアン・キッズ

2006年8月31日(木)～11月7日(火)

福岡市立福翔高校と台北市立中正高級中学の生徒が共同で、「アジアの子ども」をテーマに当館の所蔵品を使って展覧会を企画。混成の3チームから提案された3企画のうち一つを基本に採用した。展覧会の実現は、言葉の壁を乗り越えた交流の成果と言える。関連ワークショップなどの詳細は、交流事業(p.19)参照。

関連記事

2006. 8.15 西日本新聞(朝) 「高校生が展示プラン 台湾と福岡の18人で立案」
2006. 9 月刊くるめ 「展覧会を作り上げるアジアの高校生達」 p.60
2006. 9. 1 西日本新聞(朝) 「日・台の高校生ら展示プラン「アジアン・キッズ」開幕」
2006. 9. 5 天神経済新聞 「アジアの子どもたちが展示企画」 (<http://tenjin.keizai.biz/headline/690/index.html>)

豊穣の大地—アジアの花と樹

2006年11月9日(木)～2007年1月23日(火)

自然とともに生きるアジアの人々の愛情と願いがこめられた花と樹。アジアの美術作品に描かれた大地に根を張る樹木や咲き乱れる花々、ひっそりとたたずむ花の姿から、人と花と樹の関係を探索した。

関連事業 □「緑の解説員」と学芸員のダブル・ギャラリートーク

福岡市植物園の「緑の解説員」を招いて、担当学芸員と共に、同じ作品について異なる視点から紹介するダブル・ギャラリートークを行った。

日時：11月12日(日)、11月19日(日)、
2007年1月7日(日) 午後1時～2時

関連記事

- 2006.10.18 天神経済新聞「美術館の学芸員と植物園の「緑の解説員」がコラボトーク」 (<http://tenjin.keizai.biz/headline/754/>)
- 2006.12. 8 西日本新聞(朝) 「アジア絵画で植物観賞!? 美術と植物専門家が解説」
- Oct-Dec 2006 "The Land of Fertility — Asian Flora" *Heritage Asia*, p.84
2007. 1. 5 西日本新聞(朝) 「「豊穣の大地」展 学芸員らが解説」
2007. 1. 8 西日本新聞(朝) 「絵画展の植物 2視点で解説」

恋するアジア

2007年1月25日(木)～2007年4月3日(火)

恋や愛情をキーワードに当館の所蔵品を紹介する、バレンタイン・デーとホワイト・デーに合わせた企画。神話や民話など人々のあいだで語り継がれてきた恋物語、社会的にマイノリティとされる同性愛、家族や親子間のきずなといった小テーマを設けて展示を行った。

チラシ A4 制作：中央印刷紙工株式会社

関連記事

2007. 2.17 西日本新聞(朝) 堀川理沙「「恋」主題の作品 大切な人といかが」
2007. 3. 2 毎日新聞(夕) 「スイーツ ミュージアム 甘美な関係 企画展とカフェ運動」
2007. 3.13 毎日新聞(夕) 渡辺亮一「さまざまな愛の形」

交流事業

本事業は、アジア各地で活躍する美術作家や研究者・学芸員等を3カ月間招聘し、様々な美術交流事業を行うことで、市民がアジアの美術・文化に対する興味を高め、理解を深める一助になることを目指すとともに、アジア美術を取り巻く状況の活性化を目的としている。

本年度は、美術作家5人と研究者1人を招聘して、滞在制作やワークショップ、調査・研究などを通して、市民との美術交流を行った。

美術作家交流事業



カディム・アリ
(パキスタン)

1978年生まれ。ラホールの国立芸術大学(美術)を卒業。アフガニスタンの国境に近いクエッタを拠点に活動している。2004年に当館で開催した「パキスタンの現代細密画」展に出品したほか、2006-07年にはオーストラリアで開催された「第5回アジア太平洋現代美術トリエンナーレ」に参加。伝統的な細密画の技法を用いて、現代の政治状況を表現する絵画により、今後が注目される新進気鋭の美術作家。

滞在期間

2006年5月9日～8月7日

「アフガニスタンの子どもたちを幸せな気持ちにする平和な絵」を描くワークショップに参加した約200人の小学生の絵とカディムが本国より持参したアフガニスタンの子どもたちが描いた絵にもとづいて、細密画を制作した。また、美術講座や大学での講義で、細密画の技法やその歴史、イスラム美術などについて概説し、さらにアフガニスタンの厳しい社会状況についても話した。

□おもな活動

- 5月18日 南当仁小学校6年生131人と、交流スタジオで絵画を制作するワークショップを行う。
- 6月13日 柏原小学校3年生82人と、同校の体育館で絵画のワークショップを行う。
- 7月5日 九州大学大学院人文科学部の「現代文化論」の授業で、自身の作品やアフガニスタンの現状などについて講義する。
- 7月15日 あじび美術講座で「アフガニスタンのイスラム美術」について講演し、76人が聴講する。
- 7月26日 南福岡養護学校高等部の生徒42人と、同校で額縁に飾りをつけるワークショップを行う。
- 8月5日 「第7回アーティスト・イン・レジデンスの成果展パート1」で、滞在制作した細密画8点とワークショップで子どもたちが描いた作品を展示する。5日は、アーティスト・トークを行う。



ペンギラン・ティンパン
(ブルネイ)

1959年生まれ。独学で美術を学ぶ。1994年に福岡市美術館で開催された「第4回アジア美術展」や、2004-05年にタイとドイツで開催された「アイデンティティ対グローバル化」展に出品したほか、「フィリップモリス・アセアン美術展」で過去4度受賞するなど、国際的な場で90年代から継続的に活躍している。コラージュなどの様々な技法を使った絵画作品で、変化していくブルネイ社会を描く。

滞在期間

2006年5月16日～8月8日

水上マーケットで野菜や日用品を売る「パディアン」に従事する女性たちをモチーフに、日本製の壁紙を幾重にも重ね合わせ、その表面を巧妙に加工した独自の手法によって、厳しい現実を生きてきた女性たちの力強い姿とブルネイの消えゆく伝統文化や生活様式を描写した作品を制作した。

□おもな活動

- 6月13日 柏原小学校6年生102人と、同校の体育館で「夢のパディアン」を描くワークショップを行う。
- 8月5日 「第7回アーティスト・イン・レジデンスの成果展パート1」で、滞在制作した作品9点を展示する。5日には、アーティスト・トークを行う。



サラット・クマラシリ
(スリランカ)

1968年生まれ。ケラニア大学美術学部(彫刻)を卒業後、ロンドンの王立美術大学で彫刻と考古学を学ぶ。国内では90年代から活発に活動し、スリランカの若手の彫刻家たちに影響を与えている。2002年には、インドで開催された国際ワークショップ「コージ」に参加したほか、イギリスのリバプールで開催された「南アジアの工芸的思考」展にも出品するなど、今後がさらに期待される中堅美術作家。テラコッタ(素焼き)によって戦争などの人々の記憶の中の物体を作品化する。

滞在期間

2006年5月22日～8月8日

スリランカの内戦で犠牲になった友人たちが愛用したジーンズや靴などを持参し、それらをかたどってテラコッタの作品を制作した。また、旧日本軍の軍服や広島に投下された原子爆弾で亡くなった人々の遺品、福岡大空襲で焼け残った品々などをモチーフにしたテラコッタやドローイングは、そうした遺品を見るだけではなく、福岡市博物館や広島平和記念資料館を調査したり、歴史家や戦争の記憶をもった福岡の人々のインタビューを通して、より一層リアルな作品となった。

□おもな活動

- 6月9日 今津養護学校中等部の生徒24人と、同校で身近な風景を陶板に描くワークショップを行う。
- 6月30日 九州産業大学芸術学部美術学科の学生12人と、同校で戦争の遺品などをモチーフにしてテラコッタを制作するワークショップを行う。
- 8月5日 「第7回アーティスト・イン・レジデンスの成果展パート1」で、滞在制作した作品(オブジェ28点、ドローイング32点)を展示する。5日には、アーティスト・トークを行う。



ルーク・チン
(中国)

1972年生まれ。香港中文大学美術学部を卒業後、同大学院で修士号を取得。2000年はニューヨークのPS1現代美術センター、2003年には沖縄でのアーティスト・イン・レジデンス(長期滞在制作)に参加したほか、香港や中国本土でも数多くの展覧会に出品するなど、今後が注目される若手美術作家。都市空間や新聞紙面を使って、香港という都市の問題を考えさせる映像やインスタレーション作品を制作。

滞在期間

2006年9月5日～12月4日

「もし日本語が消えるとしたら、どの言葉を一番残したいですか?」というルークの問いかけに対して市民から寄せられた回答(「夢」「家族」「空」など)をテーマに、映像、写真、オブジェ等からなる作品「ランゲージ・センター」を制作した。また、香港では廃れつつある言葉を日本人に発音してもらったビデオ作品「広東語なんて簡単」の撮影や、両面テープでゴキブリを作る「香港民俗芸術シリーズ」等のワークショップを館内及び九州国立博物館で開催した。

□おもな活動

- 9月15日 有田小学校3年生114人と、あじびホールでワークショップ「広東語なんて簡単 第1章：I LOVE YOU」を行う。
- 9月24日 九州国立博物館で開催された「ボランティアメッセ2006」において、ワークショップ「香港民俗芸術シリーズ：ゴキブリ」を行い、35人が参加する。
- 10月13日 ワークショップ「香港民俗芸術シリーズ：ゴキブリ」を交流スタジオで行い、九州産業大学付属九州高等学校デザイン科の生徒30人が参加する。
- 11月17日 「オープンスタジオ」を彫刻ラウンジで開催し、2つのワークショップ「香港民俗芸術シリーズ：ゴキブリ」と「ランゲージセンター：家族」を行い、104人が参加する。
- 11月26日 ワークショップ「香港民俗芸術シリーズ：ゴキブリ」を8階ロビーで行い、55人が参加する。
- 12月5日 「第7回アーティスト・イン・レジデンスの成果展パート2」で、滞在制作した作品(映像、写真、オブジェ等12点)を展示する。5日には、アーティスト・トークを行う。



シンガポールと日本の高校生による「アジア・キッズ」展のプロモーション・ビデオ制作

期間 5月25日(木)～6月4日(日)
 参加校 シンガポール
 聖なる子キリスト修道院学校(生徒7人、教師1人)
 ナンヤン短期大学(生徒8人、教師3人)
 日本
 九州産業大学付属九州高等学校(生徒13人、教師1人)



シンガポールの高校生15人と福岡の高校生11人が、当館の学芸員や参加校教師の指導を受けながら、当館のコレクション展「アジア・キッズ」(8月31日から11月7日までアジアギャラリーBで開催)のためのプロモーション・ビデオを制作した。
 両国の生徒たちは共同制作を行いながらも、最終的には1人1つのプロモーション・ビデオを完成させた。すべてのビデオは、「アジア・キッズ」の会期前から会期中にかけて、館内で上映した。

主なプログラム

5月26日	当館学芸員による講義：学芸員の仕事、展覧会の概要等
27・28日	熊本への研修旅行
29日	プロモーション・ビデオのコンセプト作り
30日	絵コンテの制作
31日～6月2日	パソコンでビデオの編集作業を行う
3日	プロモーションビデオの発表と講評

台湾と日本の高校生による「アジア・キッズ」展の企画・開催

期間 7月29日(土)～8月6日(日)
 参加校 台湾
 台北市立中正高級中学校(生徒6人、教師2人)
 日本
 福岡市立福翔高等学校(美術部生徒12人、教師1人)



台湾の高校生と美術教師を9日間招聘し、福岡の高校生、美術教師とともに、当館のコレクション展「アジア・キッズ」(8月31日から11月7日までアジアギャラリーBで開催)を企画した。
 両校の生徒たちは3つの日・台混成チームに分かれて、それぞれの展示プランを立案。
 後日、最優秀展示プランにもとづいて、当館学芸員が展覧会を実現させた。

主なプログラム

7月30日	「台湾の女性日本画家・生誕100年記念—陳進」展の開会式参加 当館学芸員による講義：学芸員の仕事、展覧会の概要等
31日	熊本への研修旅行 滞在アーティストによるスケッチの指導
8月1日	展示作品の選定
2日	展示作業の見学、展示プランの確定
3・4日	1/25の展示模型の製作
5日	グループごとに展示プランを発表 講評と最優秀展示プランの決定



研究者・学芸員等交流事業



リンチェン・ウォンディ
(ブータン)

1979年生まれ。ティンブーの言語文化大学でブータンの伝統美術を学ぶ。現代美術がほとんど普及していないブータンにおいて、その表現方法を追求しているアーティスト・グループ「VAST」のメンバーとして精力的に活動。ワークショップや展覧会等を通して、伝統美術に止まらない、新しい美術の普及に努めている。

滞在期間

2006年9月6日～12月6日
 ブータンの風景や人物、そして福岡に滞在して目にした光景、あるいは自らの記憶や空想にもとづいて、3点の大きなアクリル画を制作。また、ブータンの伝統的な仏画「タンカ」を描く美術講座や公開制作を継続的に行うなど、ブータンの美術や文化を積極的に紹介した。

□おもな活動

- 10月13日 タンカの公開制作を彫刻ラウンジで実施し、九州産業大学付属九州高等学校デザイン科の生徒15人が参加する。
- 10月18日 タンカの公開制作を福岡市役所1階の情報プラザで行う。
- 11月3日 子ども文化コミュニティとの共同企画により、熊本在住のアーティスト、岡山直之との共同ワークショップを彫刻ラウンジで開催し、20人の親子が参加する。
- 11月7日 連続ワークショップ「ブータンの伝統的な仏画「タンカ」を描こう！」を交流スタジオで開催し、19人の受講者が6日間にわたってタンカを制作する。
- 11月17日 「オープンスタジオ」を彫刻ラウンジで開催し、ブータンの仮面の絵を木版画で制作するワークショップを開催し、95人が参加する。
- 12月5日 「第7回アーティスト・イン・レジデンスの成果展パート2」で、滞在制作した作品5点とワークショップで参加者が描いた絵画20点を展示する。5日は、アーティスト・トークを行う。



シャエラ・シャルミン
(バングラデシュ)

1972年生まれ。チッタゴン大学で絵画を学ぶ。画家として数多くの展覧会に出品した後、アーティストとしての経験を生かし、同大学美術学部の助教授としてバングラデシュなどの美術史を研究し、後進の指導・育成に当たっている。

滞在期間

2006年9月4日～12月5日
 「福岡の美術の独自性」をテーマに、福岡のギャラリーや美術館などを訪れ、様々な美術関係者に聞き取り調査を行い、福岡の美術状況を明らかにした。また、バングラデシュの美術をテーマにした講座や紙細工を制作するワークショップを開催。「バングラデシュの結婚式」のワークショップでは、本物の花婿・花嫁を登場させて紹介するなど、様々な側面からバングラデシュの文化・芸術を紹介した。

□おもな活動

- 11月11日 美術講座「バングラデシュの美術」をあじびホールで開催し、68人が受講する。
- 11月17日 東若久小学校3年生56人と、彫刻ラウンジでバングラデシュの紙細工のワークショップを行う。
- 11月17日 彫刻ラウンジでアルボナ(床に描く吉祥模様)の公開制作とトーク、そして結婚式の美演からなるイベント「バングラデシュの結婚式」を開催し、118人が参加する。
- 12月3日 福岡での調査結果について、地元的美術関係者と意見交換会を行い、26人が参加する。



教育普及事業

平成18年度は、以下の教育機関等から28人の実習生等を受け入れた。

中学校／職場体験学習	計30人
東住吉中学校	3人(6月20日)
城南中学校	1人(6月29日)
柏原中学校	4人(8月7日、8日)
須恵中学校	12人(9月5日)
宮竹中学校	5人(1月29日～2月2日)
東住吉中学校	5人(2月8日、9日、13日～15日)
高等学校／夏期インターンシップ	計5人
福岡女子高等学校	2人(8月21日～25日)
筑陽学園高等学校	1人(8月21日～25日)
福岡女学院高等学校	2人(8月21日～25日)
大学／博物館実習	計7人
西南学院大学、山口県立大学、福岡大学、久留米大学、佐賀大学、九州産業大学、福岡教育大学から各1人	
(5月15日から10月31日までのなかで10日間程度)	
大学／調査協力	
台北芸術大学芸術行政及び管理大学院	1人(7月18日～8月6日)
一般／文化庁・新進芸術家国内研修 NPO法人 DANCE BOX所属	1人(11月26日～12月5日)

ボランティア活動

8つのグループにわかれて以下の活動を行った。

活動内容

(H19年3月現在 登録者187人)

活動区分	活動内容	人数(人)
図書資料	書架整理、三段ラベル・背表紙・バーコードの貼付、寄贈印押印、配架等 (各自不定期に月2回、1日2時間以上活動)	38
学芸資料	新聞の美術関係記事のスクラップ等(各自不定期に月2回、1日2時間以上活動)	19
情報・ネット	展覧会チラシ・葉書の整理、ボランティア向けメールの配信・管理等 (第1・第3木曜日、及び第2、第4土曜日に活動)	26
案内・解説	アジアギャラリーの作品解説および施設案内 (全開館日の午後1時から4時まで、各日2名及び団体見学申し込み時に随時活動)	36
ボランティア通信編集	ボランティア向け印刷物「ボランティア通信 vol.9」「同通信 vol.10」を編集・発行	10
ボランティア催事	滞在美術作家・研究者の歓迎会(5月、9月)、送別会(8月、12月)、 研修バスツアー(7月)を企画・実施	10
交流	滞在美術作家・研究者のワークショップ等を随時サポート「ボランティアメッセ2006」に参加	101
広報	「あじびニュース」や「ベトナム絵画展」「陳進」展等のポスター・チラシの発送作業	23
		計 延べ263※

※一人が複数のグループに所属して活動できるため、人数は延べ数。



ボランティアメッセ2006(交流ボランティア)



ボランティアメッセ2006(ボランティア通信編集ボランティア)



研修バスツアー



研修バスツアー

活動

平成18年

- 4月1日 案内・解説ボランティア、アジアギャラリーの作品解説を行う。(以後、全開館日の午後1時から4時まで実施)
- 4月2日 図書ボランティア、学芸図書室で書架整理等を行う。(以後、各自不定期に月2回、1日2時間以上活動)
- 4月3日 学芸資料ボランティア、資料カード室で新聞の美術関係記事のスクラップを行う。(以後、各自不定期に月2回、1日2時間以上活動)
- 4月6日 情報・ネットボランティア、ボランティア室でチラシ・葉書の整理、ボランティアメールニュースの配信を行う。(以後、第1・第3木曜日、及び第2、第4土曜日に2時間以上活動)
- 4月12日 ボランティア通信編集ボランティア、ボランティア室で「ボランティア通信 vol.9」の打ち合わせ及び編集作業を行う。
- 4月15日 催事ボランティア、ボランティア室で前期レジデンス歓迎会の打ち合わせを行う。
- 4月22日 案内・解説ボランティア、月例ミーティングにおいて、活動の現状について議論し、ボランティアの新規募集を要請する。
催事ボランティア、ミーティングにおいて、研修バスツアーについて話し合う。
- 5月9日 広報ボランティア、「ベトナム近代絵画展」ポスター・チラシの発送作業を行う。
- 5月20日 交流ボランティア、ミーティングにおいて、前期の滞在美術作家から滞在中の活動について説明を受ける。
催事ボランティアの主催で、前期の滞在美術作家の歓迎会を行う。
- 5月27日 案内・解説ボランティア、月例ミーティングを行う。
- 6月15・16日 広報ボランティア、「陳進」展、「日本時代の台湾絵画―見いだされた郷土―」展のポスター・チラシの発送作業を行う。
- 6月24日 案内・解説ボランティア、月例ミーティングを行う。
- 7月6日 広報ボランティア、「あじびニュース25号」の発送作業を行う。
- 7月22日 案内・解説ボランティア、月例ミーティングを行う。
- 7月30日 ボランティア通信編集ボランティア、「ボランティア通信 vol.9」を発行、印刷及び発送作業を行う。
- 7月31日 研修バスツアー。滞在美術作家や美術教育交流事業に参加していた中正高級中学校、福岡高等学校の生徒たちとともに、熊本清和文楽館を見学した後、滞在美術作家の指導のもとに南阿蘇の風景を描く。
- 8月5日 前期の滞在美術作家の送別会を行う。
- 8月22日 広報ボランティア、「現代中国の美術展」のポスター・チラシの発送作業を行う。
- 8月26日 案内・解説ボランティア、月例ミーティングを行う。
ボランティア通信編集ボランティア、「ボランティア通信 vol.10」の編集会議を行う。
- 9月9日 交流ボランティア、ミーティングにおいて、後期の滞在美術作家、研究者から滞在中の活動について説明を受ける。また、9月に九州国立博物館で開催される「ボランティアメッセ2006」の福岡アジア美術館のブースについて話し合い、展示パネルの製作やワークショップの準備を随時行うことにする。
催事ボランティアの主催で、後期の滞在美術作家、研究者の歓迎昼食会を行う。
- 9月16日 案内・解説ボランティア、月例ミーティングを行う。
交流ボランティア、滞在美術作家のルーク・チンから「ボランティアメッセ2006」で行うワークショップの指導を受ける。
- 9月23日 「ボランティアメッセ2006」に参加し、コンサート、講演会、シンポジウム、交流会に出席する。
- 9月24日 交流ボランティア、「ボランティアメッセ2006」に参加し、福岡アジア美術館ブースで、活動についてのパネルを展示し、ワークショップ「ルーク・チンによる〈香港民俗芸術：ゴキブリ〉」を行う。
ボランティア通信編集ボランティア、「ボランティアメッセ2006」取材する。
- 10月3日 広報ボランティア、「あじびニュース26号」の発送作業を行う。
- 10月8日 ボランティア通信編集ボランティア、「ボランティア通信 vol.10」の編集作業を行う。
- 10月12日～31日 交流ボランティア、館内および福岡市情報プラザで行った滞在美術作家、リンチェン・ウォンディの「タンカ」の公開制作をサポートする。
- 10月28日 案内・解説ボランティア、月例ミーティングを開催する。
- 11月17日 催事ボランティア、ミーティングを行い、忘年会について話し合う。

11月17日～19日

交流ボランティア、彫刻ラウンジで開催した滞在美術作家のルーク・チンとリンチェン・ウォンディによる「オープンスタジオ」と滞在研究者のシャエラ・シャルミンによる公開制作・実演・トーク「バングラデシュの結婚式」をサポートする。

11月25日 案内・解説ボランティア、月例ミーティングを行う。

11月26日 交流ボランティア、制作・展示&トーク「ルーク・チンによる〈香港民俗芸術：ゴキブリ〉」をサポートする。

12月2日 ボランティア総会を開催し、活動の現状および新規ボランティア募集について意見交換を行う。また、防災訓練に参加する。
催事ボランティアの主催で、ボランティア忘年会および後期滞在美術作家・研究者の送別会を行う。

12月10日 ボランティア通信編集ボランティア、ミーティングを開催し、ボランティア通信 vol.10」の編集作業を行う。

12月19日 広報ボランティア、「あじび de 初詣〜アジアの神さま大集合」展のチラシの発送作業を行う

12月23日 案内・解説ボランティア、月例ミーティングを行う。

平成19年

1月5日 広報ボランティア、「あじびニュース27号」「展覧会のご案内」の発送作業を行う。

1月19日 広報ボランティア、「恋するアジア」展のチラシの発送作業を行う。

1月27日 案内・解説ボランティア、月例ミーティングを行う。

2月24日 案内・解説ボランティア、月例ミーティングを行う。

3月20日 図書ボランティア、ミーティングを行う。

3月24日 案内・解説ボランティア、月例ミーティングを行う。

3月29日 福岡市美術館で開催された「全国美術館会議 第22回学芸員研修会「ボランティアの現状と理念」」の講演会、グループディスカッション、情報交換会に参加する。
広報ボランティア、「あじびニュース28号」「展覧会のご案内」の発送作業を行う。

3月30日 「全国美術館会議 第22回学芸員研修会「ボランティアの現状と理念」」の講演会に参加する。

3月31日 ボランティア通信編集ボランティア、「ボランティア通信 vol.10」を発行、印刷および発送作業を行う。

□こども PhIM-プロジェクト PhIM2006

一橋大学大学院社会学研究科の安川一教授による研究プロジェクトの一環として企画・実施された。美術館で写真を撮ってみよう、写真から私たちの美術館の魅力や問題点を考えてみよう、という目的で多数の参加者が集まった。
場所：企画ギャラリー、アジアギャラリー Aの一部、交流ギャラリーを除く全館

日時：9月16日(土) [小学生]午前10時半～、[中学生]午後1時～、[高校生]午後3時半～
9月17日(日) [小学生]午後2時半～、[中学生]午後4時～
9月18日(月) [小学生]午前10時半～、[中学生]午後1時～、[高校生]午後3時半～

【関連記事】

2006.9.30 読売新聞(かわらばん)「アジア美術館で感じたもの撮る」

あじびニュース

vol.24 2006.4.1 発行

- 2006年度の展覧会
年間スケジュール・ダイジェスト
- 2006年度レジデンスプログラム決定!
- 第3回福岡トリエンナーレへの道-最終回
- 冬のイギリスに旅するトリエンナーレ
- ボイス・オブ・アジア(ツァオ・フェイ)
- 互いに刺激し、楽しみを共有 一人では得られない"リアル"な力



vol.26 2006.10.1 発行

- マドンナたちのフィリピン
- 豊穡の大地-アジアの花と樹
- 後期レジデンス・プログラム開始!
- 交流プログラム
アジアン・キッズ
- 私の逸品-大塚ムネトさん



vol.25 2006.7.1 発行

- 日本時代の台湾絵画-見いだされた郷土-
- 台湾の女性日本画家・生誕100年記念-陳進展
- アジアン・キッズ
- 現代中国の美術
- トピックス
国際展ラッシュ in アジア
アジアのプロダクトデザイン
- レジデンス・プログラム
作品に込められる、アーティストの思い



vol.27 2007.1.1 発行

- あじび de 初詣~アジアの神さま大集合
- 恋するアジア
- レジデンス・プログラム
制作・研究の日々、そして交流の日々
シャエラさんと巡る福岡アート
- 私の逸品-ニック・サースさん



規格 A4 8ページ
デザイン 山口紗輝

編集/発行 福岡アジア美術館
翻訳 S・ガートルマン

企画・編集 CXB

リーフレット

平成 18年度後期展覧会リーフレット

- 2007.1.1 発行
- 展覧会のご案内2007年1月-2007年3月
 - 福岡アジア美術館が主催する展覧会

規格
A4(両面カラー・3つ折り)
編集/発行 福岡アジア美術館
デザイン 山口紗輝

平成 19年度展覧会リーフレット

- 2007.3.27 発行
- 展覧会のご案内2007年4月-2008年3月
 - レジデンス事業のご案内
 - 交流ギャラリー

規格
横594×縦210mm(両面カラー・6つ折り)
編集/発行 福岡アジア美術館
デザイン 山口紗輝

ホームページ
<http://faam.city.fukuoka.jp>

コンテンツ
美術館について/基本理念、活動案内、施設概要、美術館ができるまで、アジア美術展の歩み

コレクション/収集方針、主な作品、所蔵品検索

美術館だより/最新トピックス、バックナンバー

利用案内/利用案内、交通案内、館内マップ

出版物・グッズ/出版物・グッズ、展覧会図録ほか、広報誌、オリジナルグッズ

展覧会案内/展覧会最新情報、スケジュール

イベント案内/最新のイベント、過去のイベント

レジデンス事業/今年度の滞在者、過去の滞在者、募集要項

新所蔵作品

新所蔵作品

番号 制作者
タイトル
制作年
ジャンル 素材
サイズ(cm) 制作地

新所蔵作品数 H18年度

	購入	寄贈	合計
絵画	20	13	33
版画	8	7	15
彫刻	2	2	4
写真	1	1	2
映像	4	3	7
合計	35	26	61

新所蔵作品一覧

- | | | |
|--|--|---|
| 1 チェン・ジエレン(陳界仁)
工場
2003
映像 16mmフィルム(DVD変換、30分)
台湾 | 11 作者不詳
庭園の図
18世紀
絵画 彩色・紙
24.2×37.4 中国 | 21 郭徳俊(クァク・ドッチュン)
確認
1972
写真 セラチンシルバークラウド(20枚)
各12.9×18.2 韓国・日本(寄贈) |
| 2 マリーナ・キー
夜会服
1999
版画 エッチング・紙
100×80.2 カンボジア | 12 作者不詳
街中の図
18世紀
絵画 彩色・紙
24.2×37.3 中国 | 22 ハム・ジン
みつめあう
2005
彫刻 樹脂粘土、廃物、アクリルケース(計12本)
各ケース3×1350×1.5 韓国 |
| 3 マリーナ・キー
蝶
1999
版画 エッチング・紙
98.5×70.7 カンボジア | 13 作者不詳
風景図
18世紀
絵画 彩色・紙
24.2×37.4 中国 | 23 グエン・ファン・チャン
竹を編む
1960
絵画 彩色・絹
50×71 ベトナム |
| 4 マリーナ・キー
日本のドレス
1999
版画 エッチング・紙
88.6×59.6 カンボジア | 14 作者不詳
洋館のある街
18世紀
絵画 彩色・紙
24.3×37.4 中国 | 24 グエン・ファン・チャン
行水
1964
絵画 彩色・絹
49×71.4 ベトナム |
| 5 マリーナ・キー
ウェディング・ドレス
1999
版画 エッチング・紙
118×70 カンボジア | 15 作者不詳
帆船団の図
18世紀
絵画 彩色・紙
24.1×37.5 中国 | 25 グエン・ニュ・ファン
タイグエンに行く
1962
絵画 漆・板
110×80 ベトナム |
| 6 ホン・ソンミン
アンダルシアの7つのキャラクター
2004
映像 ビデオ(5分)
韓国 | 16 作者不詳
湖水辺の風景
18世紀
絵画 彩色・紙
24.1×37.4 中国 | 26 ダン・ティン・トゥオン
都市の建設
1979
絵画 彫漆・板
90.3×120.8 ベトナム |
| 7 ホン・ソンミン
熊と少女2: 眠れる美しさ
2004
映像 ビデオ(6分)
韓国 | 17 作者不詳
河岸風景図
18世紀
絵画 彩色・紙
24.3×37.3 中国 | 27 レ・ファ
ジャングルの工場
1966
版画 木版・紙
32×48 ベトナム(寄贈) |
| 8 伊藤隆介
Realistic Virtuality(現実的な仮想性): 絵画
の主題
2005
彫刻 ビデオ・インスタレーション
日本 | 18 ジョン・ホワンユエン(鍾煌元)
クーリー
1932
絵画 漆・板
38.3×53.2 中国 | 28 レ・ティエップ
タクハ湖
1978
版画 木版・紙
34×59.5 ベトナム(寄贈) |
| 9 作者不詳
西洋風楼閣の図 I
18世紀
絵画 彩色・紙
24.4×37.4 中国 | 19 ティン・イー(丁乙)
十字の出現 99-7
1999
絵画 アクリル・タータン地の布
135.5×200 中国 | 29 ダン・コン・ゴアン
洗濯工場
1979
版画 木版・紙
37.5×69.5 ベトナム(寄贈) |
| 10 作者不詳
西洋風楼閣の図 II
18世紀
絵画 彩色・紙
24×37.3 中国 | 20 ソン・ヨンビン(宋永平)
私の父母
1999
写真 セラチンシルバークラウド(8枚)
各100×72 中国 | 30 ファム・ヴァン・ドン
チュン姉妹と進め
1970
版画 木版・紙
44.4×32.2 ベトナム(寄贈) |

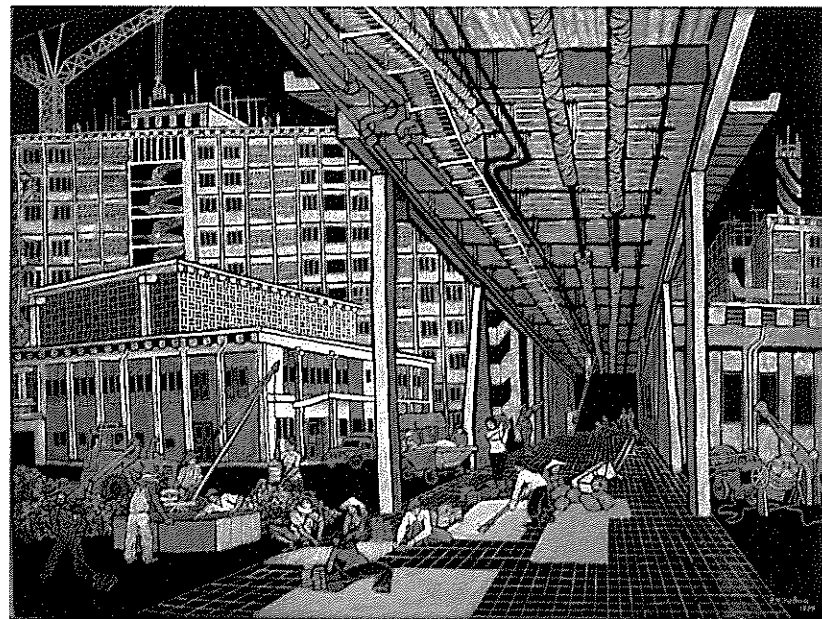
- | | | |
|--|--|---|
| 31 ファム・ヴァン・ドン
聖人ゾン
1970
版画 木版・紙
34×46.3 ベトナム(寄贈) | 43 カディム・アリ
誰もいない台所2
2006
絵画 水彩、鉛筆、金箔ほか・紙
25.2×26.4 パキスタン | 55 ミョ・タン・アウン
信じるものある生活
2004
絵画 油彩・画布
132.1×100 ミャンマー(寄贈) |
| 32 ファム・ヴァン・ドン
ホーおじさん、村に行く
1972
版画 木版・紙
34×46.3 ベトナム(寄贈) | 44 カディム・アリ
誰もいない台所3
2006
絵画 水彩、鉛筆、金箔ほか・紙
33.4×23.5 パキスタン | 56 サリタ・ドンゴル
自然の美
2002
絵画 油彩・画布
183.1×92.1 ネパール(寄贈) |
| 33 ファム・ヴァン・ドン
収穫
1977
版画 木版・紙
38×60 ベトナム(寄贈) | 45 カディム・アリ
誰もいない台所5
2006
絵画 水彩、鉛筆、金箔ほか・紙(2枚組)
29.8×23.2 パキスタン(寄贈) | 57 ナリニ・マラニ
ハムレットマシン
1999-2000
映像 ビデオ(DVD4本、各20分)、塩
インド(寄贈) |
| 34 リン・ユークァン(林友権)
村光
1969/2007
版画 木版・紙
45.5×61 シンガポール | 46 カディム・アリ
誰もいない台所6
2006
絵画 水彩、鉛筆、コービーほか・紙
42.7×24.6 パキスタン(寄贈) | 58 ナリニ・マラニ
しみ
1999-2000
映像 ビデオ(DVD4本)
インド(寄贈) |
| 35 シー・チェンティ(許振第)
物乞い
1954
版画 木版・紙
20×14 シンガポール | 47 ダルマー・バトムフ
無題
2001
絵画 油彩・画布
97.3×260.6 モンゴル(寄贈) | 59 サラット・クマラシリ
個人の苦難の記憶—組織的な暴力に直面した人々の記憶
2006
彫刻 テラコッタ、合板
182.8×91.9 スリランカ(寄贈) |
| 36 フ・チサン(符致珊)
ホロウエイ通り
1965/2006
版画 木版・紙
70.5×35 シンガポール | 48 チュルテム・ボルドバートル
自然・古代壁画・抽象表現主義
2003
絵画 アクリル、油彩・画布
162×130.2 モンゴル(寄贈) | 60 サラット・クマラシリ
個人の苦難の記憶—組織的な暴力に直面した人々の記憶
2006
彫刻 テラコッタ、合板
182.9×91.7 スリランカ(寄贈) |
| 37 コウ・シアヨン(許錫勇)
不法な商い
1957
版画 木版・紙
20.5×15.5 シンガポール | 49 レ・タン・デユク
日本の祭り6
2001
絵画 アクリル、合板
91×91.9 ベトナム(寄贈) | 61 サラット・クマラシリ
個人の苦難の記憶—組織的な暴力に直面した人々の記憶
2006
絵画 インク・紙(32枚)
27×38 スリランカ(寄贈) |
| 38 チョーン・カムコウ(鍾金鈞)
龍の伝説的な象徴 V
2006
絵画 アクリル、画布
152×122 マレーシア | 50 カム・タン・サリアンカム
ミス・ラオス・コンテスト
2001
絵画 アクリル、布、画布
178×218 ラオス(寄贈) | |
| 39 アルウィン・レアミーリョ&ジュリエット・レア
無題
1998-99
絵画 アクリル、髪、雑誌の切り抜き、紙など・
木綿のベッドシート
163×140 フィリピン | 51 アルフレッド・エスキーリョ
天国への旅(部分)
2001
絵画 アクリル、不織布
364.2×181.3 フィリピン(寄贈) | |
| 40 ムン・キョンウォン
Stop it!
2005
映像 ビデオ(14分)
韓国 | 52 ザカリヤ・ビン・オマール
化石シリーズ: オペラの幕
2002
絵画 金紙、アクリル、画布、プラスチック板
413.2×82.1 ブルネイ(寄贈) | |
| 41 ムン・キョンウォン
Look at me!
2005
映像 ビデオ(7分15秒)
韓国(寄贈) | 53 ベンギラン・ティンバン
苦悶
2006
絵画 アクリル、鉛筆、粘着シート、板
91.2×185.3 ブルネイ(寄贈) | |
| 42 カディム・アリ
誰もいない台所1
2006
絵画 水彩、鉛筆、金箔ほか・紙
21.7×30.6 パキスタン | 54 ミョ・タン・アウン
信じるものある生活
2004
絵画 油彩・画布
132.8×99.8 ミャンマー(寄贈) | |



コウ・シアヨン(許錫勇)
不法な商い
1957
版画 木版・紙
20.5 × 15.5 シンガポール



チェン・ジエレン(陳界仁)
工場
2003
映像 16mmフィルム(DVD変換、30分)
台湾



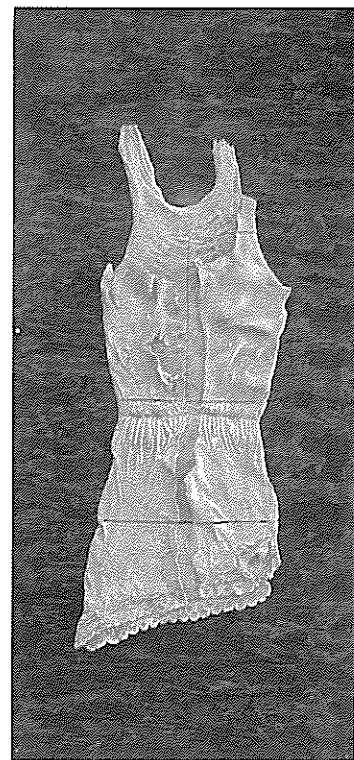
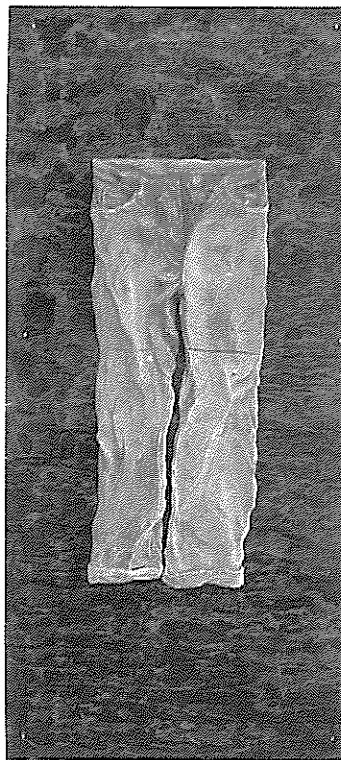
ダン・ティン・トゥオン
都市の建設
1979
絵画 彫漆・板
90.3 × 120.8 ベトナム



ソン・ヨンビン(宋永平)
私の父母
1999
写真 ゼラチンシルバープリント
100 × 72 中国



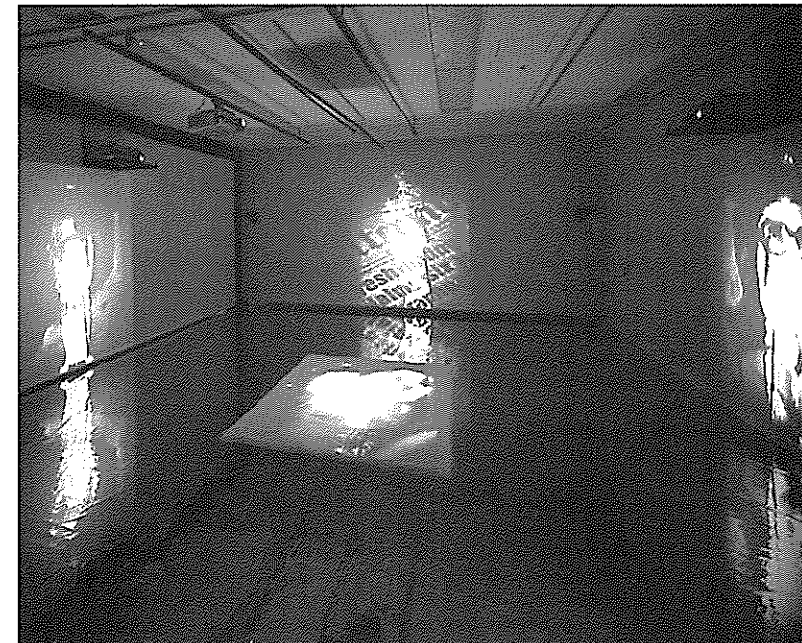
カディム・アリ
誰もいない台所2
2006
絵画 水彩、鉛筆、金箔ほか・紙
25.2×25.6 パキスタン



サラット・クマラシリ
個人の苦難の記憶—組織的な暴力に直面した人々の記憶
2006
彫刻 テラコッタ、合板
182.8×91.9(左) 182.9×91.7(右) スリランカ(寄贈)



ムン・キョンウォン
Look at me!
2005
映像 ビデオ(7分15秒)
韓国(寄贈)



ナリニ・マラニ
ハムレットマシン
1999-2000
映像 ビデオ(OVD4本、各20分)、塩
インド(寄贈)
写真撮影:今村啓

活動記録

2006年

- | | | | |
|-------|--|--------|--|
| 5月9日 | 招聘美術作家カディム・アリ氏来日
(8月7日まで滞在) | 9月6日 | 招聘美術作家リンチェン・ウォンディ氏来日
(12月6日まで滞在) |
| 5月16日 | 招聘美術作家ベングラン・ティンバン氏来日
(8月8日まで滞在) | 9月16日 | 「現代中国の美術展」開会式 |
| 5月22日 | 招聘美術作家サラット・クマラシリ氏来日
(8月8日まで滞在) | 10月23日 | バングラデシュ国立博物館館長
マフムドゥル・ハク氏来館 |
| 6月3日 | 「ベトナム近代絵画展～花と銃」開会式 | 10月23日 | フランス美術館総局長フランソワーズ・
カシャン氏来館 |
| 6月9日 | 在日フランス大使ジルダ・ル・リデック氏
一行来館 | 10月23日 | ロサンゼルス・カウンティ美術館学芸部長
ジャン・バトリス・マランデル氏来館 |
| 7月9日 | 釜山市立美術館館長チョ・イルサン氏来館 | 10月23日 | 釜山博物館館長 李仁淑氏来館 |
| 7月12日 | 国立美術館館長 林正儀氏来館 | 10月27日 | 台湾国立故宮博物館副院長 林柏亭氏来館 |
| 7月13日 | 「日本時代の台湾絵画」展開会式 | 10月30日 | バンコク国立博物館館長リムチャーイ・ナ・
ナコンパノム氏来館 |
| 7月13日 | 台湾行政院文化建設委員会主任委員
邱坤良氏来館 | 12月18日 | インドネシア国立美術館館長ツバグス・
サクマナ氏一行来館 |
| 7月13日 | 台北市立美術館館長 黄才郎氏来館 | 12月18日 | 平成18年度 第2回美術館協議会 |
| 7月30日 | 「台湾の女性日本画家－陳進展」開会式 | 12月28日 | 仕事納め(12月26日～1月1日まで休館) |
| 7月30日 | 台北市立中正高級中学校高校生及び美術教師
一行来日(8月5日まで滞在) | | |
| 7月31日 | 平成18年度 第1回美術館協議会 | | |
| 8月22日 | タイ副知事ダムリィ・ブンチンプ氏一行来館 | | |
| 9月4日 | 招聘研究者シャエラ・シャルミン氏来日
(12月5日まで滞在) | | |
| 9月5日 | 招聘美術作家ルーク・チン氏来日
(12月4日まで滞在) | | |

2007年

- | | |
|-------|---------------------|
| 1月4日 | 仕事始め |
| 1月22日 | 平成18年度 美術交流事業招聘者選考会 |
| 2月15日 | 平成18年度 美術資料収集審査会 |
| 2月23日 | 平成18年度 美術資料収集審査会 |

概要

アジア美術の独自の創造を目指す一助とするため、
 アジア近現代美術を通して人々が集い、
 互いに理解し、創造、発信するアジア美術の交流の場とする。
 また、世界的に有数の質の高いアジア近現代美術作品の集積を生かし、
 展示、収集のみならず、日常的なアジアとの交流、
 調査研究活動を積極的に展開するとともに、
 アジアの芸術家や研究者等と日本の芸術家、研究者、
 市民が互いに創り、学びあうことにより、
 新たな創造と相互理解を促す機会を提供する。

2 活動内容

1 美術交流・研究事業

アジアの作家や研究員等を福岡に招聘し、美術館でライブの創作活動を公開しながら、市民と一緒に作品を創作し、また、最新の研究成果を発信する等、多彩な美術交流事業を日常的に実施する。

(1) アジアからの滞在作家との交流事業

市民共同創作事業
 ワークショップ
 滞在制作展覧会
 滞在作家講演会

(2) 調査研究事業

国内外の研究者によるアジア近現代美術の作家、作品、美術史等の研究成果の発表として展覧会や講演会を企画、開催する。

人材育成、支援

・アジアの美術作家や研究者等の支援、育成、協力(留学芸員受入れ、派遣等)

地域交流

・アジア美術の背景にあるアジア文化について、多くの市民が気楽に参加し、アジアを身近に感じることができるイベントを開催する。

2 展示事業

(1) コレクション展示

収蔵品を展示することでアジア近現代美術の流れをたどり、また、ジャンル別やテーマ別にアジア美術作品を紹介する。

(2) 企画展示

特徴的なアジア近現代美術をシリーズで紹介する。
 ・近代美術シリーズ
 ・現代アジアの作家シリーズ
 ・アート横断シリーズ
 ・生活とアートシリーズ

(3) 特別企画展

アジア美術の最新動向を紹介する「福岡アジア美術トリエンナーレ」を3年毎に開催する。
 アジアのみならず、幅広い分野の特別企画展を主催、共催する。

3 収集事業

(1) 収集方針

アジア美術の独自性を示す優れた作品を、近現代を中心に収集する。

(2) 収集作品の対象範囲

対象範囲
 ・パキスタン以東、モンゴル以南、インドネシア以北・以西

対象とする時代範囲

・原則として、19世紀から現代までの近現代を中心とする時代。
 ただし、アジア近現代美術の流れを研究するうえで必要な近代以前の美術資料の収集も行う。

4 教育普及事業

(1) 美術情報コーナー

福岡アジア美術館で開催する様々な催し物の案内や収蔵品、展示作品の紹介、その他の特集コーナーを設け、アジア美術の理解を深める資料を提供する。
 さらに、アジア全域にわたって美術を紹介するオリジナルの番組ビデオ「アジアの美シリーズ」を上映する。

(2) アジア美術紹介ビデオ、出版物等

アートビデオをシリーズで上映、また、収蔵品ガイドブックやニュースレター、インターネット等により教育普及を図る。

(3) あじびホール

美術交流事業や展覧会にあわせて、美術教育プログラム、講演会やシンポジウム等を開催する。また、ミニコンサートや小演劇、上映会等、文化・芸術活動を楽しむ機会を提供する。

3 施設概要

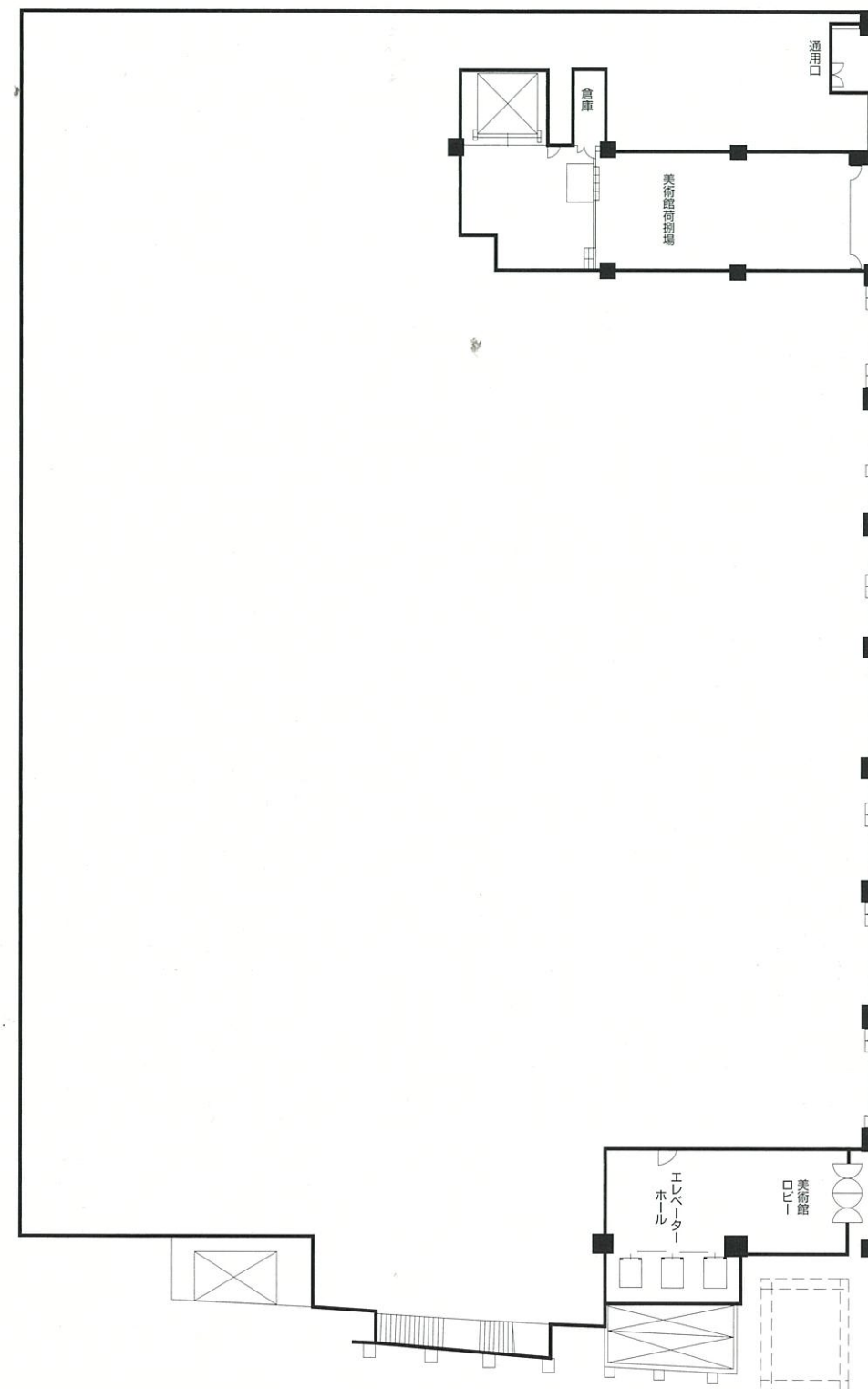
設置者 福岡市長
 設立年月日 平成11年(1999)3月6日
 名称 福岡アジア美術館
 所在 福岡市博多区下川端3番1号(博多リバレイン)
 面積 建物面積151,595.91のうち区分所有
 専有面積9,101.05㎡
 構造 鉄骨鉄筋コンクリート造 地下4階地上13階のうち
 1階及び7階、8階
 設計者 日建設計・観光企画設計社・都市未来ふくおか・西日
 本技術開発・設計共同企業体
 取得額 保留床取得価額12,552,002千円

[各室面積表一覧] (単位:㎡)

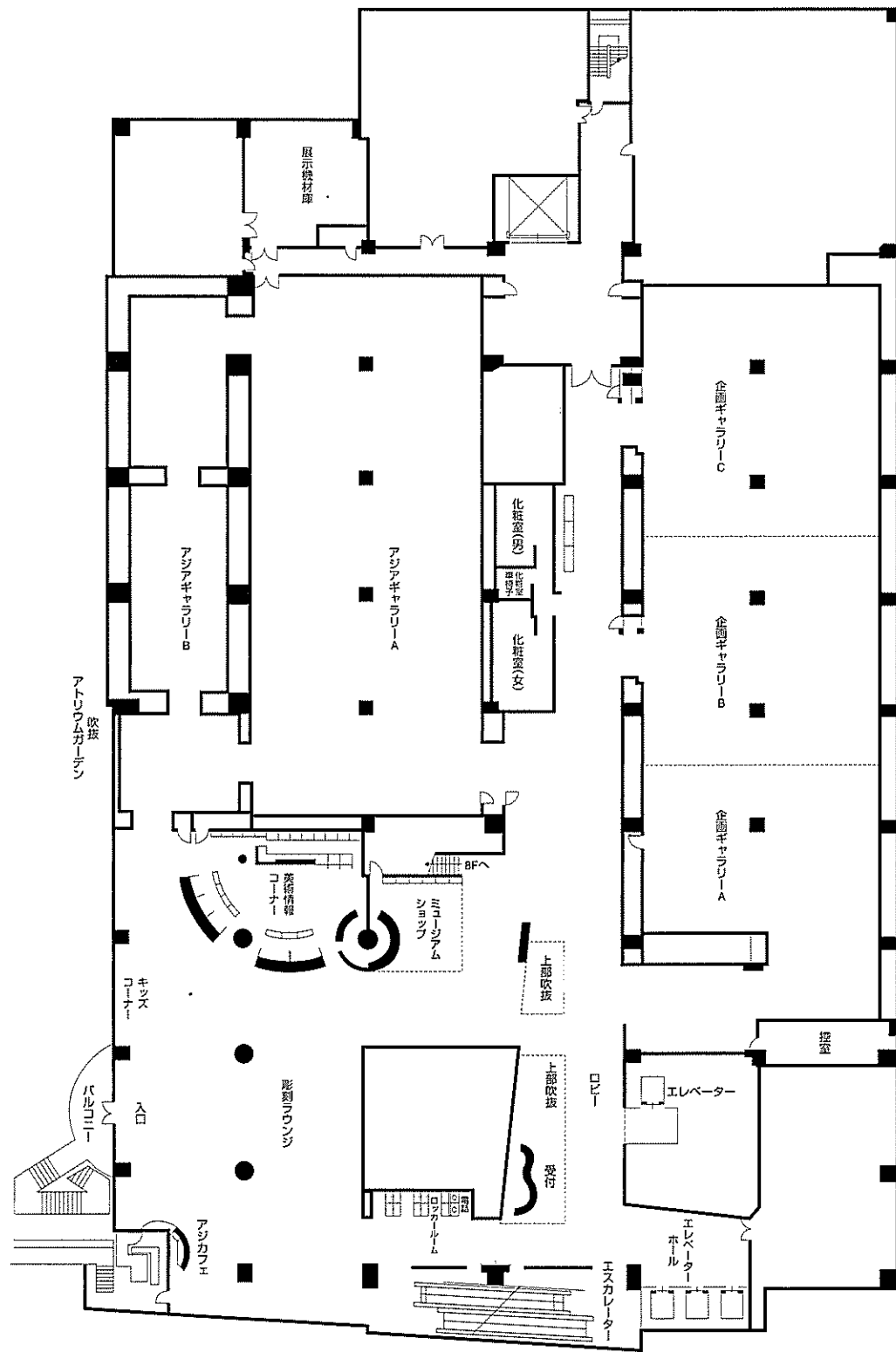
地下1階	61.69
1,2,3号EVビット	31.19
13号EVビット	30.50
1階	398.34
1,2,3号EV	47.47
13号EV	36.60
美術館ロビー	52.01
EVホール	50.97
美術館荷捌場	66.53
倉庫	11.24
搬入車路	133.52
7階	4,233.33
企画ギャラリー	1,004.58
物入(1)	8.77
控室	23.01
ロビー(2)	61.69
機械室(3)	131.18
チャンパー(機3)	28.43
EVホール	47.36
階段	19.43
荷捌室	110.95
通路	335.79
便所前室	12.05
便所(客・男)	22.40
便所(客・女)	31.84
便所(客・車)	5.84
ロビー(2)	214.10
展示機材庫	56.55
チャンパー	23.38
裏通路	37.40
M7F機械室	59.40
機械室(2)	92.33
アジアギャラリー	1,110.56
ミュージアムショップ	77.60
商品倉庫	20.38
美術情報コーナー	125.52
彫刻ラウンジ	516.24
コーヒースタンド	14.39
中8階ホール	42.16
8階	4,407.69
1,2,3号EV機械室	56.11
格納庫(1)	171.00
収蔵庫(1)	152.02
準備室	87.60
交流スタジオ	223.30

8階	暗室(1)	9.90
	倉庫(1)	23.70
	交流ギャラリー	369.54
	倉庫	19.11
	機械室(1)	128.96
	前室(機1)	26.13
	階段	14.82
	格納庫(2)	17.94
	撮影室	87.30
	暗室(2)	6.50
	便所(男・女)	7.02
	荷捌室	167.84
	警備室	14.85
	倉庫(2)	30.80
	あじびホール	159.53
	前室(あじび)	7.35
	前室(あじび)	5.39
	調整映写室	23.50
	ロビー	360.43
	収蔵庫(2)	252.27
	前室(収蔵2)	11.10
	機械室(4)	25.32
	映像資料室	35.20
	AVステーション室	52.49
	資料カード室	40.45
	学芸図書室	119.84
	図書閲覧室	44.14
	階段室	13.42
	便所(客・男)	18.44
	便所(客・女)	23.74
	便所(客・車)	6.77
	医務室	6.73
	授乳室	14.74
	便所(職・男)	17.54
	便所(職・女)	16.41
	女子ロッカー	14.24
	男子ロッカー	11.44
	給湯室	6.85
	物品倉庫	32.00
	印刷室	13.87
	監視員控室	30.88
	ボランティア室	45.95
	ミーティングルーム	41.02
	機械室(2)	22.87
	機械室(3)	144.90
	チャンパー(機3)	20.21
	倉庫(3)	22.20
	招待者用研究室(1)	32.76
	招待者用研究室(2)	32.79
	招待者用研究室(3)	32.79
	倉庫(4)	9.88
	会議室	122.63
	学芸研究室	81.75
	学芸・管理課	245.27
	館長室	41.48
	前室(館長)	8.53
	応接室(1)	30.33
	応接室(2)	35.92
	休憩室	21.59
	脱衣室	7.70
	シャワー室	2.00
	通路	135.81
	廊下	290.79
合計		9,101.05

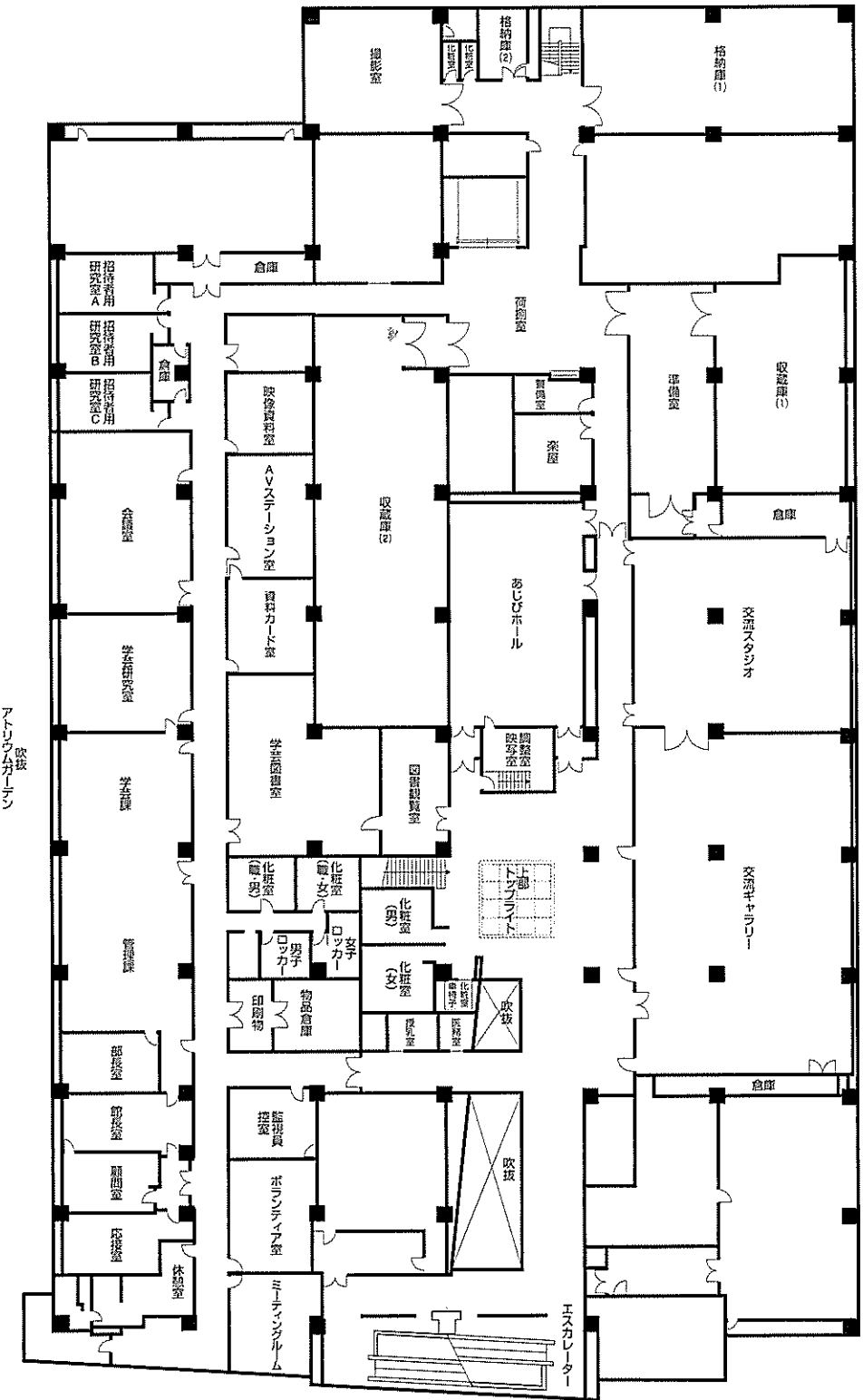
1F



7F



8F



4 沿革

平成 4年(1992) 6月	市長がアジア近代美術館の建設意向を表明
平成 5年(1993) 7月	アジア美術館整備構想委員会の設置、開催(答申までに2回開催)
平成 7年(1995) 2月	アジア美術館整備構想委員会の答申 市長が下川端市街地再開発ビルでの設置を表明
平成 7年(1995) 3月	第1回アジア美術館建設専門委員会開催(開館までに7回開催)
平成 7年(1995) 4月	平成7年度当初予算に調査費を計上、福岡市美術館内に建設担当課の設置(1課2係4人)
平成 7年(1995)11月	基本方針決定
平成 7年(1995)12月	下川端地区市街地再開発組合と保留床売買に関する覚書を締結
平成 7年(1995)12月	美術館用建物取得。一般会計補正予算、福岡市議会で原案可決
平成 8年(1996) 1月	下川端地区市街地再開発ビル起工
平成 8年(1996) 2月	第1回アジア美術館市民懇談会開催(開館までに5回開催)
平成 8年(1996) 3月	下川端地区市街地再開発組合と保留床売買契約書を締結
平成 8年(1996) 4月	建設担当課の増員(1課2係5人、参与及び担当部長の兼務発令)
平成 8年(1996) 8月	第1回アジア美術館資料収集審査会開催(開館までに4回開催)
平成 9年(1997) 3月	土地共有持分移転登記
平成 9年(1997) 4月	建設担当課の設置(2課3係8人)
平成 9年(1997) 7月	開館記念展「第1回福岡トリエンナーレ」(正式名称：第1回福岡アジア美術トリエンナーレ1999[第5回アジア美術展])実行委員会設立総会
平成10年(1998) 2月	正式館名を公募。「福岡アジア美術館」に決定 (応募件数4,079点[2,775人])
平成10年(1998) 2月	開館記念展の国際協力者会議開催
平成10年(1998) 9月	福岡アジア美術館条例制定
平成10年(1998)10月	建設工事完了 竣工検査
平成10年(1998)12月	建築物引渡し
平成11年(1999) 1月	福岡アジア美術館へ組織変更 (館長以下2課3係12人[嘱託5人]体制)、美術館へ事務所移転
平成11年(1999) 2月	建築物登記
平成11年(1999) 3月 1日	博多リバレイン竣工式
平成11年(1999) 3月 3日	福岡アジア美術館開館記念式典
平成11年(1999) 3月 6日 ～6月 6日	福岡アジア美術館開館、博多リバレイン開業 開館記念展「第1回福岡アジア美術トリエンナーレ」開催
平成11年(1999) 5月	収蔵品を福岡市美術館から移転
平成11年(1999) 6月	収蔵品展示の開始
平成14年(2002) 3月21日	「第2回福岡アジア美術トリエンナーレ」開催(6月23日まで)
平成15年(2003) 5月27日	観覧者 100万人達成
平成17年(2005) 9月17日	「第3回福岡アジア美術トリエンナーレ」開催(11月27日まで)
平成18年(2006) 3月20日	第3回アサヒビール文化芸術財団芸術賞受賞



巨大なキャンバスに手でアクリル絵具を塗るリンチェン・ウォンディ(ブータン)



柏原小学校でワークショップを行ったカディム・アリ(バキスタン)

名簿

福岡アジア美術館美術資料収集審査会委員

乾 由明	兵庫陶芸美術館館長
中村 英樹	名古屋造形芸術大学教授
後藤 新治	西南学院大学教授
ソボン・ロドボン	チェンマイ大学美術学部助教授(タイ)

福岡アジア美術館美術交流事業招聘者選考会

河地 知木	九州産業大学芸術学部長
後小路 雅弘	九州大学大学院教授
山野 真悟	ミュージアム・シティ・プロジェクト運営委員長
古川 勝敏	福岡市図画工作科研究委員会委員長・南当仁小学校校長
高宮 由美子	NPO子ども文化コミュニティ代表理事

福岡市美術館協議会委員(福岡アジア美術館を含む)

会 長	錦 織 亮介	北九州市立大学教授
副 会 長	濱 砂 圭子	育児情報誌編集長
委 員	荒 木 敏男	松崎中学校長
//	石 川 正知	財団法人福岡文化財団専務理事
//	後 小 路 雅弘	九州大学教授
//	片 平 幸子	福岡市PTA協議会副会長
//	京 谷 啓徳	九州大学助教授
//	後 藤 新治	西南学院大学教授
//	小 林 俊子	福岡市青少年団体連絡会議理事
//	佐々木 静子	福岡市社会教育委員
//	藤 本 昌代	福岡市老人クラブ連合会理事
//	古 野 靖弘	社団法人 福岡県美術協会理事長
//	松 尾 孝司	株式会社西日本新聞社専任職編集委員
//	松 永 吉海	堤丘小学校長
//	山 田 彰	福岡市美術展運営委員
//	龍 秀美	秀巧社印刷(株)外国語チームチーフディレクター
//	渡 り 義勝	博多工業高等学校長

福岡アジア美術館職員

館 長	石 田 武壽
顧 問	安 永 幸一
事業管理部長	石 原 勉
管理課長	因 間 誠助
管理係長	矢 羽 田 正男
事務吏員	田 中 文利
事務吏員	成 冨 眞弓
事務吏員	大 木 良一
囑託員	田 中 光子
囑託員	藤 本 毅
学芸課長	黒 田 雷児
収集展示係長	ラワンチャイクン寿子
学芸員	山 木 裕子
学芸員	五 十 嵐 理奈
交流係長	松 浦 仁
学芸員	中 尾 智路
囑託員	音 在 孝子
囑託員	蒲 池 昌江
囑託員	高 木 のぞみ
囑託員	堀 川 理沙

発行 2007年10月31日
福岡アジア美術館
福岡市博多区下川端町3-1 リバレインセンタービル7・8階
URL:<http://faam.city.fukuoka.jp>
デザイン 瀬上印刷株式会社
印刷 福岡アジア美術館
著作権 2007年(禁無断転載)



